

2 議題

(2) 外部評価の総括

① 内部評価の妥当性と施策の方向性

主な意見は次のとおり

- ・内部評価における施策推進上の課題の捉え方、施策の方向性は概ね適切であったと考える。
- ・提示された外部評価総括（原案）の内容を支持する。
- ・今後の施策推進にあたっては、3～5年後など近い将来でまちづくりのビジョンを具体的に示すことが必要である。
- ・市民も行政も、取組に「関わる」という意識付けをしていくことが必要であると考える。
- ・行政の取組は、市が周知するだけでなく、市民の知ろうとする力も必要と考える。
- ・取組の優先度を付ける考え方を構築するとともに、ソフトに関する取組とハードに関する取組のバランスを考えて、施策全体を実施していくことが必要である。
- ・総合計画としての性質上、ある程度総花的な施策構成になることは理解できる。
- ・今後の行政運営にあたっては、IT等の新しい技術を積極的に活用することが望まれる。
- ・超高齢社会の更なる進展を見据え、介護予防がこれからの課題になってくるため、次の5年間も推進すべき。
- ・介護、子育てに関する施策については、横のつながりやソフト面の強化が重要になると考える。
- ・社会環境が大きく変化していく中、どのように地域を活性化していくのか、また、市がどのように対応していくかが重要である。
- ・都市力の施策で市民意識の反映ができていないものがいくつか見受けられた。市民意識調査の重要度のとおりか、あるいは、市のアナウンスが足りないのか、乖離している原因を分析すべき。

② 外部評価全体に関する意見

主な意見は次のとおり

- ・外部評価を行うにあたっての事前準備や論点が整理されていた。
- ・外部評価委員会に施策を所管する担当の職員が出席し、疑問に対して回答されたことにより、円滑に評価をすることができた。
- ・中長期的に必要な施策は、内部評価と市民意識調査だけでは評価が難しいため、外部評価は重要である。
- ・評価シートに加えて、各施策の事業内容に関する説明があると更に議論が深まると考える。
- ・施策評価に加え、事務事業レベルの外部評価を実施し、事業の廃止・継続を検討してみてもどうか。
- ・次回の施策評価では施策指標の目標値の設定根拠を示すべき。
- ・施策の達成度は参加者数、開催回数など、量だけで評価するのではなく、質による評価も検討するなど、施策の成果を表すにふさわしい指標の設定を検討すべき。
- ・内部評価の評価項目は合理的であった。
- ・継続実施との評価であっても、一部見直すべき部分もあったため、一部見直しも反映できるようにしてもらいたい。
- ・評価結果について、「Aに近いB」などの評価結果にしたい部分も見受けられたため、次回の外部評価では、評価結果の細分化の検討をお願いしたい。